

三次市地域公共交通総合連携計画 策定調査

<調査の進め方>

平成21年8月28日

1. 調査の目的とフロー

(1) 背景と目的

三次市では、人口減少・高齢化の急進，路線バス利用者の減少に伴う路線合理化（減便・休廃止）の危惧，不効率なバス路線の存在，市町村合併に伴う経費補填（財政負担）の増大など，生活交通に関して多くの課題を抱えている。

そのため，これまで「新市生活交通体系計画総合ビジョン」，「三次市生活交通体系実施計画」，「三次市生活交通中期プラン」を検討・策定しており，また実際にバス路線の再編や運行システム変更等を進めるなど，市民のよりよい交通環境づくりを行っている。

さらに今後も，三次市が安心・快適に暮らせる地域であり続けるためには，現在の生活交通環境を一層向上させるとともに，（限られた財源において）長期に渡り持続させることが非常に重要になっている。そのためには，実態を詳しく捉えて分析することで市民ニーズに合ったサービスを提供すること，かつ無駄の少ない持続可能な公共交通システムを構築することが必要といえる。

以上を踏まえ，本調査では，三次市の将来を見据えた，効率的かつ持続可能な生活交通体系の計画である「三次市地域公共交通総合連携計画」を策定する。



図 検討対象地域

(2) 調査フロー

調査のフローは以下のとおりである。

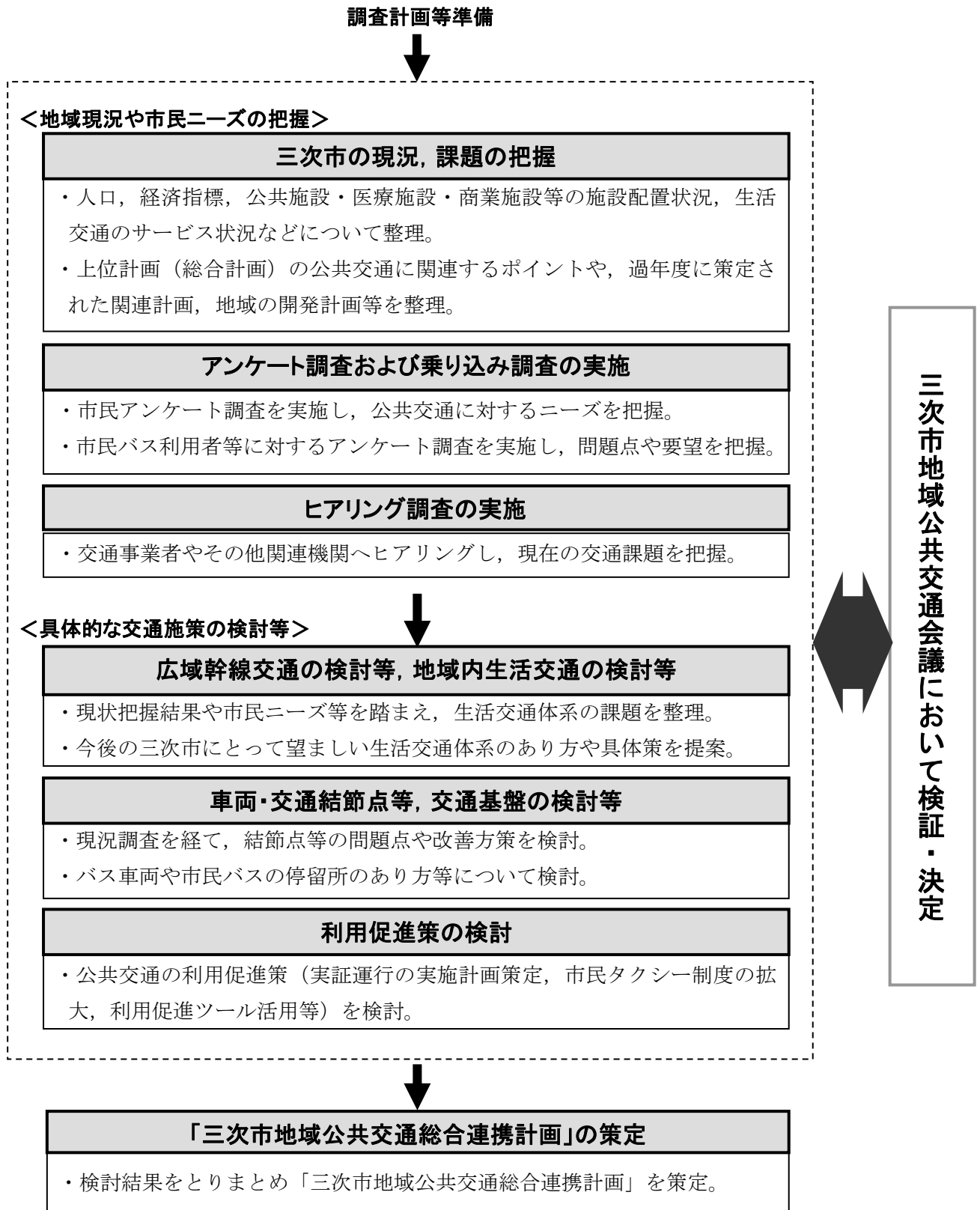


図 調査フロー

2. 調査の進め方

2. 1 地域現況や市民ニーズの把握

(1) 地域現況の整理

三次市における人口動向、公共施設等の施設配置状況、生活交通のサービスや利用状況等について、統計指標や運行実態等を基に整理するとともに、交通環境に関わる課題を抽出する。

【整理項目の例】

- ・人口指標、施設配置状況
- ・生活交通機関の運行状況、利用状況
- ・スクールバス、通所バス等、他の移動サービスの運行状況
- ・バス運行に関わる財政支出の推移
- ・交通空白地域の状況など

また過年度策定した計画（三次市生活交通中期プラン）や、上位計画（三次市総合計画）のうち生活交通に関連する内容、また三次駅周辺整備事業など、生活交通に関連する開発計画の概要について整理する。

【整理資料項目の例】

- ・既往調査（三次市生活交通体系実施計画、三次市生活交通中期プラン）
- ・三次市総合計画（公共交通に関連する箇所の整理）
- ・開発計画（三次駅周辺整備事業等） など

(2) アンケート調査の実施

①アンケートの種類

生活交通に対する市民や利用者ニーズを把握するため、「市民アンケート」、及び市民バス・デマンドバス・市民タクシー・路線バス利用者を対象とした「バス利用者アンケート」を実施する。

②アンケートの実施要領

②-1 市民アンケート

配布対象	・市内在住の6,000人を対象。(15歳以上の市民に配布)
配布回収の方法	・郵送配布, 郵送回収
調査票サイズ等	・A3サイズ(両面) ・「地域交通マップ」を同封 ※配布により, 生活交通の運行状況を理解しながら回答することが可能。また生活交通の周知にも繋がるため, 利用意識を高める効果も期待。

②-2 バス利用者アンケート

	市民バス利用者	デマンドバス利用者	市民タクシー利用者	路線バス利用者
配布対象	・全利用者を対象	・全利用登録者を対象	・主な利用者を対象	・主要バス停での乗降者を対象
配布回収方法	・市職員による乗り込み調査を実施し、手渡しで調査票を配布，回収は郵送。	・利用登録者を対象に，郵送で配布・回収。	・利用組合に協力を依頼し，主に利用する人へ配布。組合を通じて回収。	・主要なバス停留所（以下の2箇所）において，バス利用者へ調査票を実施。 ア) 三次駅 イ) 市立三次中央病院

(3) ヒアリング調査の実施

アンケート調査結果を補完するとともに，より詳細な情報（地域交通に関わる現状や問題，要望等）の把握を目的として，ヒアリング調査を実施する。

ヒアリング先（案）	主な設問項目等
■交通事業者 ・（有）君田交通 ・十番交通（有） ・（有）三和タクシー ・（有）甲奴タクシー ・備北交通（株） ・（株）中国バス	・利用状況（利用が多いOD，時間帯，属性等） ・利用者から聞かれる要望や問題点 ・事業者の立場からみる問題点 ・利用促進策等への協力意向 など ※市民バスの乗務員にもヒアリングする。 困難な場合は，簡単なアンケートを依頼。
■医療機関 ■商業施設	・利用客等の交通手段分布 ・主な集客エリア，来訪時間の分布 ・バス運行に対する要望 ・利用促進策等への協力意向（ポイント制度などバス利用での訪問に対するインセンティブの付与，広告） など
■教育機関	・スクールバスに関する問題点 ・その他通学支援に関連する公共交通の問題と要望 など
■行政機関	・住民や利用者から聞かれる要望や問題点 など

2. 2 具体的な交通施策の検討等

(1) 持続可能な交通体系（地域内生活交通・広域幹線交通）の検討

①生活交通体系の整備コンセプトの検討

これまでの検討を踏まえ、交通課題をまとめるとともに、今後の三次市にとって望ましい生活交通体系のあり方（整備コンセプト）について、特に市民生活における利便性向上、交通の持続可能性に留意して検討する。

【整備コンセプトの検討にあたって】

- ◎ 市民や交通事業者等、立場が異なる主体であっても共通した認識を持つことが出来るように、分かりやすく、明確な基本方針を備えたコンセプトを設定する。
- ◎ 検討に際しては、過年度策定した計画（中期プラン等）において示されたキャッチコピーや、考え方を踏襲し、必要に応じてより分かりやすいものへ更新するなど、柔軟に対応する。

過年度の計画で示されたキャッチ

- ・ みんなで創る 便利でふれあいのある 地域（ふるさと）の交通 <三次市生活交通体系実施計画より>
- ・ みんなで創る 便利で夢ある 地域（ふるさと）の交通 <三次市生活交通中期プランより>

図 整備コンセプトの検討

②交通施策の検討

②-1 交通課題の想定

交通施策の検討に際し、三次市における主な交通課題を整理する。現段階では、次のように想定する。

- ア) 市民バスにおいて、乗車密度が 1.0（人／便）未満など、不効率な路線が存在しており、見直しが必要。
- イ) 路線バスにおいて、乗車密度が 2.0（人／便）未満など、不効率な路線が存在しており、見直しが必要。
- ウ) 現況の生活交通体系でカバーされていないエリアについて、対応が必要
- エ) 三次ウェブ号の利用者が少ないため、利用ニーズに合った運行への改善が必要。
- オ) 運営事務等の負担、また担当者の高齢化から、市民タクシー利用組合数が減少しており、運営システムの見直しが必要。
- カ) 旧町村から中心市街地へ便利に移動できる環境と整えるためには、交通機関同士の連絡性向上が必要。
- キ) 進む高齢化に対応するため、車両のステップ設置の推進が必要

②-2 交通施策の検討

各交通課題に対応する交通施策を検討する。施策（案）及び検討の進め方、具体的な方法を以下に示す。

公共交通に係る課題	課題に対応する施策(案)	検討の進め方	検討の方法
ア) 市民バスにおいて、乗車密度が1.0（人／便）未満など、不効率的な路線が存在しており、見直しが必要。	ア) 市民バス等の再編・部分デマンド化検討	<ul style="list-style-type: none"> アンケートおよびヒアリング結果等を踏まえ、地域内交通の問題点を整理し、改善策について検討する。 市民バス等の生活交通のうち利用者数が少ない路線については、効率化の観点から見直しを検討する。（運行日が多い路線は利用が多い曜日に絞る、ルート見直し、その日の需要に合わせた送り便の設定等）。さらに次のステップとして、部分デマンド運行の可能性を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善路線の設定。 アンケート調査等を踏まえて改善策の検討。 調整会議を開催し、地域住民と一緒に方向性を検討。
イ) 路線バスにおいて、乗車密度が2.0（人／便）未満など、不効率的な路線が存在しており、見直しが必要。	イ) 路線バスの再編検討	<ul style="list-style-type: none"> アンケートおよびヒアリング結果を踏まえ、路線バス等の問題点を整理し、改善案を提案する。 特に乗車密度が低い路線については、再編や廃止等、効率化に向けた方向性を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善路線の設定。 アンケート調査等を踏まえて改善策の検討。
ウ) 現況の生活交通体系でカバーされていないエリアについて、対応が必要	ウ) 自家用有償運行の導入検討	<ul style="list-style-type: none"> 現在、交通空白地帯として残っている箇所については、住民ニーズを確認の上で、出来るだけコストを費やさない方法での支援策を検討する。 具体的には、平成19年11月～21年3月に、「鳥取県中山間地域研究センター」主体で社会実験を行った自家用有償旅客運送事業の実現可能性を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査等よりニーズを確認。 社会福祉協議会や、岡三淵（実験実施エリア）住民へヒアリングを実施し、実現可能性や課題を検討。
エ) 三次ウェーブ号の利用者が少ないため、利用ニーズに合った運行への改善が必要。	エ) 三次ウェーブ号の再編検討	<ul style="list-style-type: none"> アンケートおよびヒアリング結果を踏まえ、三次ウェーブ号の問題点を整理する。 利用ニーズを整合したルート案、分かりやすいダイヤを検討し、次年度以降の運行を目指した計画づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査等よりニーズを確認。 交通事業者、商工会議所等からなるプロジェクトチームを結成し、具体的な再編内容や運行計画を検討。
オ) 運営事務等の負担、また担当者の高齢化から、市民タクシー利用組合数が減少しており、運営システムの見直しが必要。	オ) 市民タクシー制度の改善検討	<ul style="list-style-type: none"> 市民タクシー制度の参画団体を増やし、かつ持続できるように、事務処理等の省力化、および参画し易い仕組みについて検討する。 利用促進を図るためPR方策の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用組合にヒアリングを実施し、現在の問題点を把握。 国（中国運輸局）の協力を得ながら、新しい仕組みを検討。
カ) 旧町村から中心市街地へ便利に移動できる環境と整えるためには、交通機関同士の連絡性向上が必要。	カ) 結節点（JR駅や市民バスと路線バスとの乗り換え拠点）の整備方針検討	<ul style="list-style-type: none"> JR駅や乗継拠点となるバス停留所等、交通結節点の問題点について整理をする。 問題点やアンケート結果の分析結果等を踏まえて、結節点の利便性を高め、鉄道とバス、また路線バスと市民バスとの連絡性を高める施策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査の実施、アンケート調査結果より、JR駅等の問題点を把握。 結節点の利便性向上に向けた施策の方針をハード、ソフト面から検討。
キ) 進む高齢化に対応するため、車両のステップ設置の推進が必要。	キ) 市民バスの車両改修検討	<ul style="list-style-type: none"> 市民バス等の車両は低床型では無いため、バリアフリー化を望む利用者も多い。そのため、新規車両の導入や既存車両の改良（補助ステップ設置等）の方向性、優先順位（例えばニーズが高い路線を優先、利用者数が多い路線を優先等）について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査等よりニーズを確認。 交通事業者ヒアリングで方向性を確認。

(3) 利用促進策の検討

①広域・地域内交通検討後の実証運行計画

次年度の実証運行に向けて、これまで検討してきたバス路線再編等の検討結果を踏まえ、運行計画を作成する。

③生活交通情報の提供手段の検討

現在、市民バスに関して統一かつ整理された路線図（バスマップ）や時刻表が存在していないことから、市民意見を踏まえたデザイン案の検討を行う。

具体的には、市民アンケートの実施時に、路線図（バスマップ）の素案を同封して、修正等の意見を募集し、その結果を踏まえた上でデザイン検討を行う。

さらに検討したデザイン案は、各地域で実施される調整会議等において、参加メンバーに議論頂くなどにより、より利用しやすい内容へと更新する。

2. 3 三次市地域公共交通総合連携計画の策定

これまでの検討結果を整理し、今後の三次市における生活交通体系づくりの実施計画である「三次市地域公共交通総合連携計画」を作成する。

3. 調査スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査計画等準備	←→								
三次市の現況、課題の把握	←→	←→							
(市民ニーズ等の把握)									
アンケート調査及び乗り込み調査の実施		←→	←→	←→					
		(調査票設計等)	(実施)	(入力・分析)					
ヒアリング調査の実施			←→	←→					
			(乗り込み調査)	(ヒアリング)					
(交通施策の検討)									
広域幹線交通の検討			←→	←→	←→	←→			
			(各地で調整会議を開催し、検討)						
地域内生活交通の検討			←→	←→	←→	←→			
車両・交通結節点等、交通基盤の検討				←→	←→	←→			
利用促進策の検討				←→	←→	←→			
各種報告書の作成 (三次市地域公共交通総合連携計画)						←→	←→	←→	←→